

鶴見区高潮ハザードマップ 高潮浸水想定区域(想定最大規模※)

この高潮ハザードマップは、高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは
「想定し得る最大規模の高潮」による氾濫を前提として予測したものです。

高潮浸水想定区域(想定最大規模)はどのように決めたの？

この高潮浸水想定区域の範囲や深さは、国内観測史上、最も大きな台風が、沿岸に最悪の被害を与える経路で襲来した場合をシミュレーションにより予測したものです。

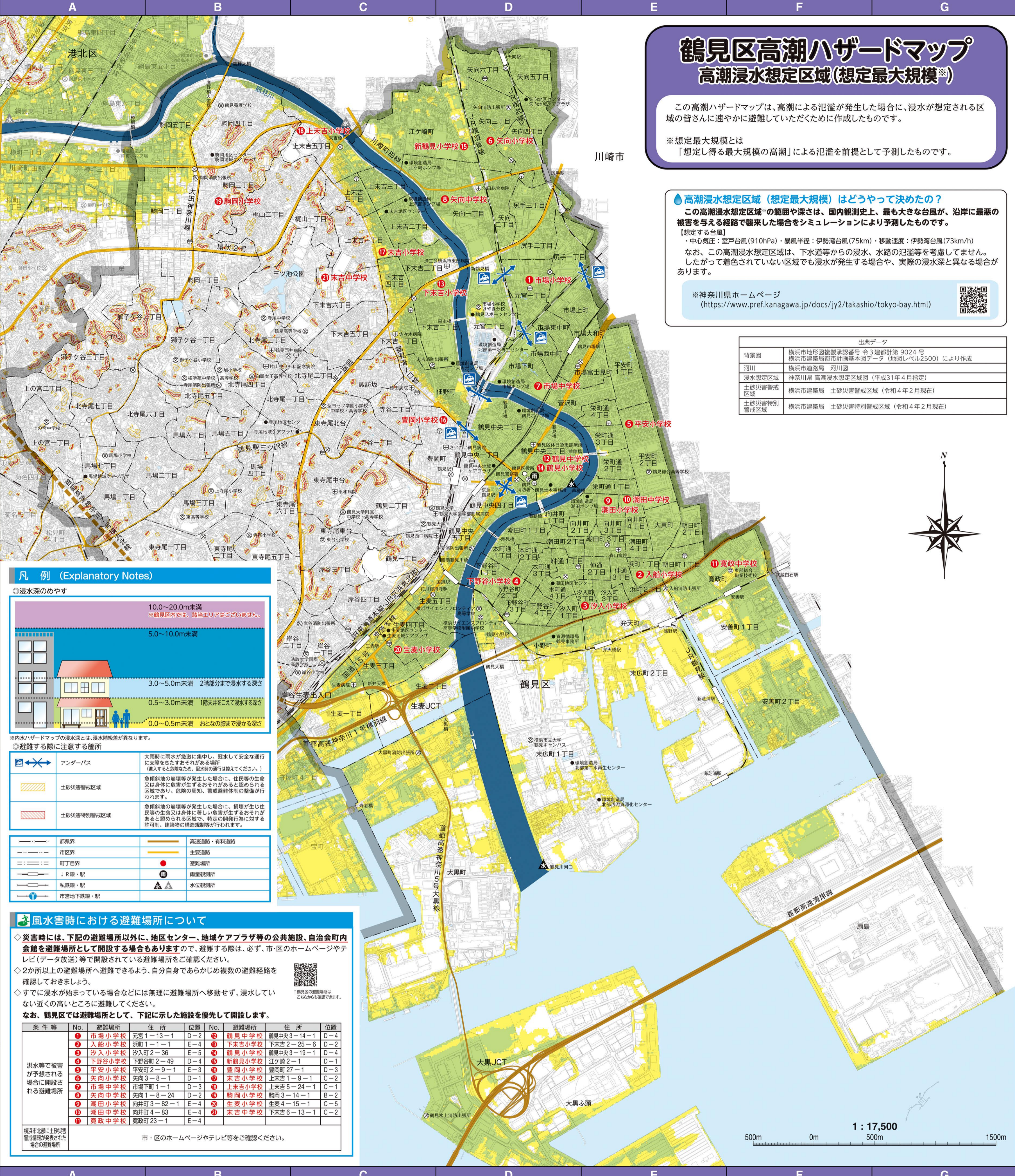
【想定する台風】
・中心気圧：室戸台風(910hPa)・暴風半径：伊勢湾台風(75km)・移動速度：伊勢湾台風(73km/h)

なお、この高潮浸水想定区域は、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮してません。したがって着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

※神奈川県ホームページ
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/jy2/takashio/tokyo-bay.html>)

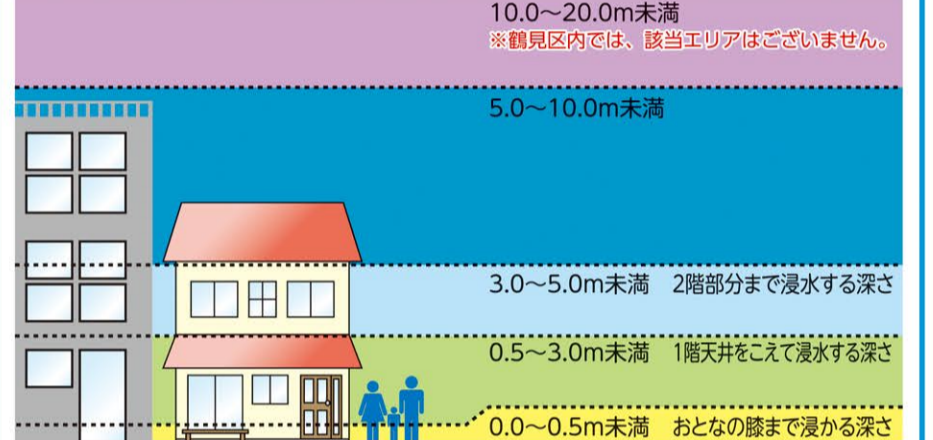


出典データ	
背景図	横浜市地形図複製製図承認番号 令3建都計第 9024 号 横浜市建設局都市計画部本図データ(地図レベル2500)により作成
河川	横浜市道局 河川図
浸水想定区域	神奈川県 高潮浸水想定区域図(平成31年4月指定)
土砂災害警戒区域	横浜市建設局 土砂災害警戒区域(令和4年2月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建設局 土砂災害特別警戒区域(令和4年2月現在)



凡例 (Explanatory Notes)

○浸水深のめやす



※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水階級が異なります。

○避難する際に注意する箇所

	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所(進入すると危険なため、冠水の進行は控えてください。)
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危険が生ずるおそれがある区域と認められる区域であり、危険の周知、警戒態勢の整備が行われます。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、崩壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危険が生ずるおそれがある区域と認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
	都県界	
	市区界	
	町丁目界	
	JR線・駅	
	私鉄線・駅	
	市営地下鉄線・駅	
	高速道路・有料道路	
	主要道路	
	避難場所	
	雨量観測所	
	水位観測所	

風水害時における避難場所について

- 災害時には、下記の避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。
- 2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。
- すでに浸水が始まっている場合などには無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。

なお、鶴見区では避難場所として、下記に示した施設を優先して開設します。

条件等	No.	避難場所	住所	位置	No.	避難場所	住所	位置
洪水等で被害が予想される場合に開設される避難場所	1	市場小学校	元宮1-13-1	D-2	2	鶴見中学校	鶴見中央3-14-1	D-4
	2	入船小学校	浜町1-1-1	E-4	3	下末吉小学校	下末吉2-25-6	D-2
	3	汐入小学校	汐入町2-36	E-5	4	鶴見小学校	鶴見中央3-19-1	D-4
	4	下野谷小学校	下野谷町2-49	D-4	5	新鶴見小学校	江ヶ崎2-1	D-1
	5	平安小学校	平安町2-9-1	E-3	6	豊岡小学校	豊岡町27-1	D-3
	6	矢向小学校	矢向3-8-1	D-1	7	末吉小学校	上末吉1-9-1	C-2
	7	市場中学校	市場町1-1	D-3	8	上末吉小学校	上末吉5-24-1	C-1
	8	矢向中学校	矢向1-8-24	D-2	9	駒岡小学校	駒岡3-14-1	B-2
	9	潮田小学校	向井町3-82-1	E-4	10	生麦小学校	生麦4-15-1	C-5
	10	潮田中学校	向井町4-83	E-4	11	末吉中学校	下末吉6-13-1	C-2
11	寛政中学校	寛政町23-1	E-4					

横浜市北部に土砂災害警戒区域が発表された場合の避難場所
市・区のホームページやテレビ等をご確認ください。

3 高潮の発生について

高潮とは

台風や発達した低気圧が通過する際、海面(潮位)が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮と高潮が重なると高潮水位はいっそう上昇し、大きな災害が発生しやすくなります。

① 気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用した結果、海面が上昇します。気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇するとされています。例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風を中心付近では海面は約50センチメートル高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。

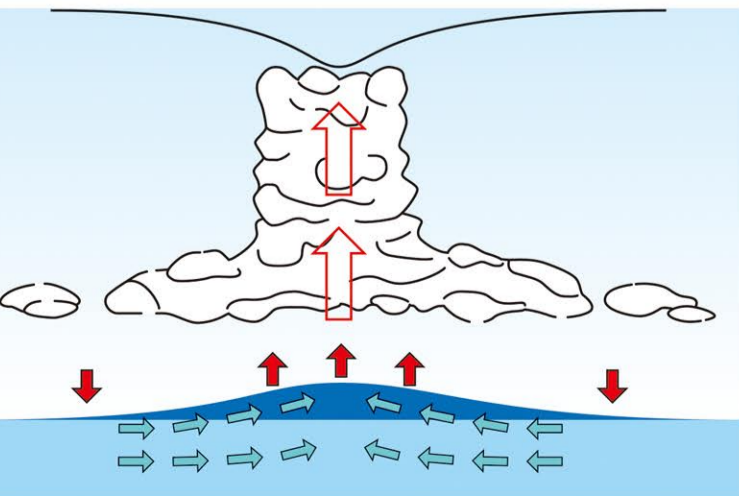


図-1 吸い上げ効果
国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成
(https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaiganduki/takashio/1mecha/01-2.htm)

② 風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面は4倍になります。また、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。

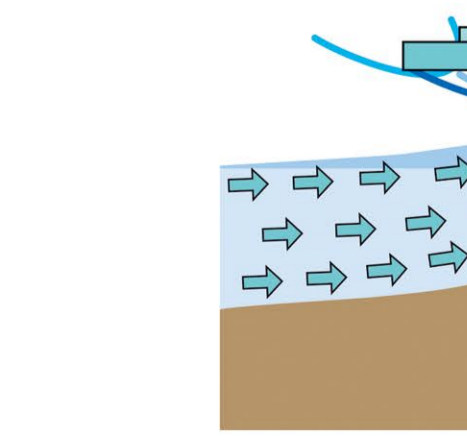


図-2 吹き寄せ効果
国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成
(https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaiganduki/takashio/1mecha/01-2.htm)

想定条件
中心気圧 910hPa、暴風半径 75km、移動速度 73km/hの台風

避難情報がでたら

～避難情報が発表されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

警戒レベル	発表表示	とるべき行動	避難情報(横浜市)
警戒レベル5	緊急安全確保	【命の危険 直ちに安全確保！】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保
警戒レベル4	避難指示	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ●(1)情報入手方法と日頃からの備えの「避難の考え方」も読みください。 ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所へ避難する。 天候や水位の急変時には、高齢者等避難を必ず避難指示を発生することがあります。	避難指示
警戒レベル3	高齢者等避難	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、安全な場所へ避難する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難
警戒レベル2	-	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	-
警戒レベル1	-	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。	-